

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No. 84

2010年2月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>

かけがえのない体験！

親子農業体験講座
一般参加 笹津満恵子

前田
09.12.5

ちっちゃなお手手で そば打ちに挑戦！

広報を何気なく読んでみると、「親子農業体験講座」の文字が目についた。四月から十二月まで、ジャガイモ・サトイモ・サツマイモ・ソバを育てて収穫し、食べるまでの農業体験をすると書いてある。「これだ！」と私は思った。自然と触れ、小さな種から大きな作物ができるという喜びを娘に知ってもらうには打ってつけたと思っただけだ。問を置くことなく受話器を握り申し込んだ。

四月四日、まだ少し肌寒さが残っていた。今日の作業はジャガイモの植え付け。娘はもちろろん、私にとつても初めての作業である。スーパで手軽に購入できることを考えると手間も時間もかかる作業ではあったが、楽しかった。何より、初めて目にする広大な畑に歓喜し、どろんこになりながら娘が楽しんでくれたことが嬉しかった。

五月・六月には芽かき・土寄せ・草取り、残念ながら私たちは参加できなかったが、さといも・さつまいもの植え付けをした。

そして迎えた七月十八日の収穫祭。この日は娘の三歳の誕生日でもあった。偶然とはいえ何となく喜ばしいことである。一歳成長した娘はどう感じとってくれるのだろう。ワクワクしながらジャガイモのつるを引っぱった。予想に反して小さなジャガイモであったが、紛れもなく最初から最後まで自分たちで育てたジャガイモだ。喜びもひとしおだった。娘も「おいも！おいも！」と軍手を放り投げ、手づかみで喜んでくれた。

それから七月・八月・九月と耕うん・草取り・そば種まきをした。十月にはさといも・さつまいもの収穫祭。収穫祭後は、そば刈り・実落とし・唐箕かけなど、そばに関する作業をした。どれも興味深い作業だった。そして十二月五日、そば打ち。私自身これが一番の楽しみであった。そば粉八に対して小麦粉二の割合で作る「二八そば」。水加減が天候に係るので難しい。不思議なことに、同じ分量で作ったそばであるのに、できあがってみると打った人各々で違った味がしておいしかった。娘は粘土細工と間違えているのか、お団子状にして、そばというには程遠いものを作ってくれたが、おいしかった。

飽食で食べ物に困らない昨今、食べることの大切さ、その食べ物のありがたみを、作物の育つ過程を通じて肌で感じてほしい。今回の農業体験で、娘は形には見えない何かを感じ取ってくれたと思っている。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

プロジェクト 活動報告

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！



里山自然観察隊

平塚 芳雄

観察隊の活動に参加して四年

里山自然観察隊の活動に参加するようになって間もなく丸四年に。初めて参加したのは平成十八年四月に行われた「牛久のスミレの観察会」でした。「うしく里山の会」に入会して間もない時期に渡辺泰さんからこのような観察会があるので参加してみませんかと声を掛けられました。それまで私は環境問題の方に関心があり、定年退職後、地球温暖化防止や循環型社会の実現、霞ヶ浦の水質問題、生物の多様性と言ったその方面の講演会や学習会等には良く参加していたのですが、植物そのものにはあまり関心がなく知識もありませんでした。

その初めての観察会で市内にも十種類以上のスミレが咲き、身近な住宅街の道路路際にも生育していることを教えられ、関心を持って身の回りのものを見ないと、見えてるものも見えなくなることを改めて認識させられました。

その後、観察隊の観察会や植物調査に継続的に参加することとなり、現在は事務方幹事役を務める立場に。この四年間の体験（事務方として毎回百種前後の植物の確認とリストアップなど）では草木の名前や植物調査・観察の具体的な方法を知っただけでなく、その過程で牛久の水田や山林の現状の一端も知ることに。稲刈りが済んだ水田に冬までに花を咲かせ実を付けようとしている小さな植物達の存在。その一方、小野川流域の主な水田の一枚当たり面積は長さ約百メートル、巾数十メートルで区画整理され広くなり、灌漑設備が整い小川が用水路に変化。農薬・除草剤使用の関係か水



刈り取りが済んだ水田で植物を探す

平塚 09.10.10

田内に雑草が殆ど生えず畦道の方に植物の種類や量が多いこと。田草取りの負担を思い、農薬・除草剤使用と植生との関係も考えさせられる。山林に関しては市内の山林は現在土地利用の約二割に減少。クヌギ・コナラなどの雑木林が少なくスギ・ヒノキ林（針葉樹）は比較的多い。竹の進入、立入るのが難しい程のアズマネザサの繁茂。粗大ゴミの捨て場になっているところも。

このように植物の主たる生育地である山林や湿地は減少し生育環境が厳しく絶滅が危惧される種も少なくなく一方外来種が目立つのが現状です。

現在、観察隊では来年度の活動内容及び運営についてメンバーで協議を重ねていますが、活動内容としてはこの様な現状を踏まえ「うしく里山の会」の事業目的を再認識して、その目的実現の方角でのウエイトを高めていかなばと考えています。



巨木リサーチ2事業報告

石川 満夫

うしく里山秋祭り「樹木名クイズ」に携わって

巨木リサーチ2では、本年度は「樹木クイズ班」を設け、「ドングリ教室」と「樹木クイズ」を実施しました。ここでは後者について報告します。

実施内容は木の葉と果実の名前を当てるもので、出題樹種は次の十種類。常緑樹：アカマツ・シラカシ・スギ・スタジイ・チャノキ・ヤブツバキ、落葉樹：イチヨウ・クヌギ・コブシ・トチノキ。

はじめに、出題と採点のため次の三種類の資料を作成。子ども「森の博士」テキスト：タイトルと樹木名のクイズ回答覧、正解数、認定欄を記載、出題樹木名一覧表、番号毎の正解樹木名一覧表。参加者には、はじめ資料とを渡し、回答後を受けとり、と突き合せ、正解数、認定区分を記入、「森の博士認定証」と一緒に渡しました。葉と果実の収集は行事への参加が決まった時点から開始。トチノキの葉は新聞紙で挟み錯葉標本とし、他の葉は前日に収集しました。「森の博士認定証」は金賞・銀賞・銅賞の三区区分とし、

金賞にはスタジイ、銀賞にはコブシ、銅賞にはイチヨウの果実を掲載、裏側に樹木の説明を記載しました。採点区分は、金賞：正解数十五問以上、銀賞：同十～十四問、銅賞：同九問以下としました。当日十時、太陽の光が輝くなかでの始まりです。机の上には写真のようにペットボトルに挿した葉（トチノキは標本）とタッパーウェアに入れた果実を並べました。祖父母・孫、親・子連れが多く、好天も加わり参加者は楽しそうでした。

参加者に前述の資料とを渡し、クイズ開始。葉・果実を見て樹木名を回答表に記入する者、資



樹木クイズに挑戦する母と子

戸塚 09.11.29

料の出題樹木名一覧表を参考にする参加者、参加家族に楽しい会話、笑顔、団欒がありました。「できました!」、と嬉しそうに回答用紙を持参する子供達。回答用紙を受け取り、採点。子供たちと一緒に採点するあいだ、顔中が輝いていました。参加者と葉や果実の特徴を話し合いながら、採点を実施しました。「認定証」を渡した時の笑顔が印象に残っています。大盛況のうちに十五時終了。

「森の博士認定証」の授賞数は、金賞四十四人・銀賞七人・銅賞十人で、合計六十一人認定したことになります。成績は大変良い結果となりました。この様な実体験を通して、参加者たちの樹木に対する知識が深まり、新たな興味が生まれ、樹木クイズ実施の意義が大きかったと思っています。



あやめ受託事業報告

佐藤 輝雄

花菖蒲について

牛久観光アヤマ園も完全にオフシーズンに入り、昨年は十二月二十一日を作業納めとして、基本的には今年一月も管理作業は休みにしている。ということでは会員の皆さんに少しでも花菖蒲のことを知っていただきたく、この紙面を借り簡単に説明したいと思う。(資料等で調べたが、私も専門家ではないので誤りがあつたらご容赦のほどを)

花菖蒲はノハナシヨウブ(山野の草原や湿原に自生する多年草植物)を改良してできたもので、江戸時代から栽培されているようである。その後、各地での改良が進められ、大きく江戸系・肥後系・伊勢系に分けられている。特徴は、江戸系は江戸初期から育てられ、主に三英花・六英花(花弁の数)が多く、群生での美しさがあり風雨にも強いようである。

肥後系は江戸系を基に、肥後藩主によって育てられたものを熊本花菖蒲と呼び六英花が多く、大輪で男性的で室内観賞向きとされている。伊勢系はやはり江戸系を基に、伊勢松阪地方で栽培が続けられ、花弁はちりめんのが多く、女性的な花である。

花菖蒲はアヤマ科アヤマ属の多年草で、葉がシヨウブに似ていて美しい花が咲くことから「花菖蒲」と呼ばれるようになったらしい。一般的にシヨウブという「花菖蒲」を指すことが多いが、菖蒲湯等に使われるシヨウブはサトイモ科シヨウブ属で花菖蒲とは別のものである。

私たちは、牛久観光アヤマ園で作業をしていると来園者の方から次のような質問を受ける「あやめ・花菖蒲・カキツバタの違いはなにか?」。簡単にまとめると、

・あやめ(菖蒲とも書く) 花卉の付根部分に白と

黄色の網目模様がある。五月上・中旬に開花し乾燥地で育つ。

・ハナシヨウブ（花菖蒲） 花弁の付根部分に黄色い斑紋がある。五月下旬～六月下旬に開花し乾燥地・湿地に育つ。

・カキツバタ（杜若） 花弁の付根部分に白い斑紋がある。五月中・下旬に開花し湿地を好む。



別区（黄）で、白・黄の部分は、起こし、畝を作り直す。この作業が一番の重労働となる。肥料は、二月ごろ

の芽出し肥料、七月ごろのお礼肥料、九月ごろの株を育てる施肥、そして除草剤は一切使用しないで手での除草となる。従ってめだかやタニシ等の水生植物が多く繁殖する。

皆さんに喜んでいただける花の咲く時期は、一カ月弱だがこの喜びのために、あとの十一カ月はこつこつと地道な管理作業に追われているあやめ園である。

江戸系



肥後系



伊勢系



街路樹

チーム街路樹20 受託專業報告

増田 勝彦

第一回「ロマン活動」を終えて

チーム街路樹20は、昨年十月二十八日から十一月三十日にかけて、毎週水曜日と土曜日を「ロマン活動」の日と定めて、延べ十六回の「落ち葉掻き」を実施しました。小さかった頃、秋になると落ち葉を自然に受け入れて、焚火の前で手作りの焼き芋を食べた原風景がよみがえります。

さて、牛久市内には、街路樹が主要道路に六千本以上植えられています。しかし、秋になっても、紅葉を楽しみ落ち葉を踏みしめて歩くという体験はできません。この時期、牛久の街路は、道路沿いに丸木を挿したような殺風景な風景が展開されています。理由は簡単です。市は十月に入ると、街路樹の一斉剪定を始めます。では、なぜ剪定をするのでしょうか。集水枡に大雨が降れば落ち葉が水が溢れる等の実害もありますが、主に個人宅から、家の前に葉っぱが落ちて「掃くのが大変だ!」という苦情が市役所の担当課に電話で入ります。反面、なぜ剪定をしようのかと言う自然擁護派の住民もいますが、現実には、拒否派の声が重視されて剪定が続いています。街路樹に関する一部市民の苦情は自治体共通の問題で、当市に限ったことではないようです。

研修見学会で訪ねた松戸市常盤平のケヤキ、高尾のイチヨウ並木、歴史豊かな横浜の落ち葉輝く秋の歩道を、牛久で再現できないだろうか。ロマンチームの「落ち葉掻き」はこのような原点から生まれました。昨年夏、市緑化推進課と協働して「落ち葉掻き対象モデル地区」二カ所を設定、こ

の地区は整枝のみで毎年の剪定はしないことになりました。

その結果、モデル地区の西友ストアー前のナンキンハゼは昨年秋、素晴らしい紅葉をつけました。地区以外の木は、十月の剪定後に、季節外れの緑の葉を付け、十一月中旬ごろには萎れた状態のまま、黒ずんだ葉っぱを落としました。もう一方の地区、市役所裏、近隣公園のメタセコイアは、自然のまままで葉を落としたせいか、伸び伸びとした枝ぶりで存在感を誇っています。春の若葉が楽しみです。十七日間の一当たりの平均参加者数十二名、回収した葉っぱは、生ゴミの袋で五〇袋に達しました。「うしく里山の会」一般会員（サポーター）は二名、近隣住民の参加者三名でした。また、街路樹の維持管理を担当されている、松戸市の「みどり」と花の課」の職員の方々からも、素晴らしい街路（樹）作りの苦労話を伺うことができました。



市役所裏近隣公園のロマンチーム 増田 09.12.19



雑木林応援隊

飯田 雅俊

ムジナの里とカブト虫

昨年の夏ムジナの里でNさんがカブト虫を見つけ孫にみやげと持って帰った。雑木林にカブト虫、コーヒークリブ(古い)、白神山地にブナ林というように両者があってなりたっている。今年ムジナの里でカブト虫という言葉聞いたのはその一回、最近二三年見たことがない。

観察の森へ行けばトン糞堆肥・落ち葉堆肥の中には(秘密)たくさんいる。キャンプに行った時夜遅くまで語り合っていると自動販売機の明かりに誘われていろいろなむしが集まっているなかに自動販売機の下にカブト虫がいたりする。朝に森に行ったりすると見つけたらりすることを考えると夜行性のようであり、昼にみつけるのは難しいのかもしれない。

里山の会で「わんぱくビートルズ」のプロジェクトがあった時わたしも幼虫をいただいて、大きなプラスチックケースを購入、落ち葉を敷き詰めて育てたことがある、乾いてしまわないよう霧吹きをしたり、幼虫の糞がたまるので堆肥を半分ほどかえたりもした、その間幼虫が上にと下へと移動しているのを見ていたのが楽しかった。会のホームページの投稿写真にAさんの写したさまざまな美しい姿を見ることはできなかった。しばらく見当たらないと忘れていたころ二匹のメスがいた。幼虫のお尻にくろっばい三角形がみえるとオスとおしえていただき、ハッキリとは分からなかったが選んだつもりであった。

ムジナの里の整備始めてから、ここにもカブトの住む場所をとWさんと米ぬかをリヤカーで運んで混ぜ、水をかけながら踏み固め、樹液が出るように木にナタできずをつけたりした。夏に堆肥の



中で幼虫を見つけた時は楽しかった。ツノがいくつか落ちていたのもあり、オオタカなどの餌になると聞いて驚いた。

水をかけて踏み固めた。

十二月になってKさんが幼虫はモグラに食べられてしまっていると思うので下に金網を敷いてみましようと言われ、家に網戸の網があるのでという、何でも試してみましよういわれる。次のムジナでの活動日にKさんも来ていただき、昨年の作った堆肥場所を掘り返すと空洞があちこちに走っている。応援隊が間伐した太い枝を横に並べ柵にして、秋に作った米ぬか堆肥を移しさらに落ち葉を重ねつくった。

来年の夏には幼虫がたくさん夢は見なかったが、そんな夢を見続けたい(歳を考えると)。



生物多様性とは



いろいろな生物が存在しているよつす。生態系の多様性、種における多様性、遺伝子の多様性など、

各々の段階でさまざまな生命が豊かに存在することとあり今問題になっている生物多様性の危機は

1. 開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生育地の減少
2. 里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下
3. 外来種などの持ち込みによる生態系のかく乱

さらに地球温暖化による世界的な危機があります。

(環境省資料より)

皆さんは生物多様性についてどの程度の知識がありますか？

「生物多様性検定」に挑戦してみても如何でしょうか。

環境GOOの中で、

<http://eco.go.go.jp/topics/biodiversity/>

すぐこのURLを開いて見てください。画面には「地球からいきものがいなくなる日」という衝撃的な画面となります。その画面の下の方に「03 生物多様性検定」があります。そこをクリックして、次のページに進みます。検定開始をクリックすると一〇問の問題が出てきます。次々に答えると、最後にあなたの知識はA・B・Cで採点されます。評価が悪く、悔しい方、再トライできます。(坂)

運営委員会からのお知らせ

坂 弘毅

会報さとやま一月号で「今年は収益事業」への方針転換について記述いたしました。

この件につきまして補足説明をします。

うしく里山の会は非収益の事業活動を行っていません。非収益事業と言いますと、各事業で収益を得ないで活動することです。したがって受託事業につきましても、受託金は実費弁償で、利益をいただいております。なぜかと思われることでしょうか。これは、収益事業とした場合、収益の金額に応じた法人税の他、地方税は均等割と言いまして、茨城県に二万円、牛久市に五万円の納税義務が発生します。里山の会ではこれまでの財務状態から、納税できる状

態ではないと、県および市に対して減免措置を申請して参りました。この申請をした場合、収益を出すことが出来ません。

うしく里山の会は創立から五周年が経過しましたが、必要経費は、会費、賛助金の他、一部を助成金、寄付金に頼りながら運営して参りました。しかし、活動領域が拡大していることと、地域から信頼されるNPO法人として認知されていること等を勘案し、更なる飛躍のためには、財政基盤の強化が必要と考えました。

収益事業につきましては、各プロジェクトに対して負担を強いるものではありませんが、会の更なる飛躍のため、多少なりともご協力をお願いしたいと思います。

収益事業は、基本的には専門の事業部を設置して具体的な計画を策定しますが、たとえば、里山講座（年十二回）の参加費、里山セミナーの開催による参加費、里山グッズ販売、ガイドツアーのガイド料・資料代、さらには受託事業に管理費の設定等々が考えられます。得られた収益は、既存事業の活動充実や新たな事業展開のために再投資します。

このように会の財務状態を改善して、更なる飛躍の年にしたいと考えております。皆様方のご支援をお願い申し上げます。



コラム

「里山って」
坂弘毅

私たちは牛久自然観察の森という素晴らしい環境の中で活動する機会を与えられました。この美しい環境こそが「里山」なのです。

その里山という言葉があらゆる場面に登場する時代になってきました。里山は里地という表現もあり、雑木林があつて、茅葺き屋根の農家が点在する情景を想起させます。

里山は日本の原風景と言つても過言ではないでしょう。里山はこのような農村風景の中にあり、ヤマ（山）、ノラ（田畑）、ムラ（集落）という三条件がそろっているのが「里山」と言うことになりま

す。この里山という言葉が使われるようになったのは、大変古く、「近世林業史の研究」（所三男著）によると、江戸時代の一七三九年（宝暦九年）に、寺町兵右衛門が著した「木曾山雑話」の中に「村里家屋近き山を指して里山と申し候」とありま

す。これはまさに前述の三条件と合致します。里山には、陽樹といわれる落葉広葉樹の、コナラやクヌギの他、アカマツを中心とする植生となつていますが、関東地方の本来の植生は照葉樹の陰樹と呼ばれるヤブツバキやカシ、シイなどに覆われた極相林でした。それがなぜ陰樹から陽樹に変わつていったかと言つことを考えますと、人間の集落が拡大することによって、森林は次々に伐採され、焼き畑などの耕作地に変わつていきました。

また天変地異による、落雷、洪水、山崩れなどによる攪乱で段階的に植生遷移があり、陽樹の里山が完成されたと考えられます。

江戸時代の一七一六年八代將軍吉宗の時代は、世の中は安定し治安はすこぶる良く、江戸の人口が世界最大と言われる百万人規模の大都市になると、問題となつたのは、エネルギー問題でした。吉宗は江戸を取り巻く周辺地域に薪炭林（クヌギ・コナラ・アカマツで雑木林という）の拡大を命じました。天領となる薪炭林は「御林」（おはやし）と呼ばれ、牛久の現地域の半分以上が御林となつていきました。現存する里山は当時の遺構と言つことになりました。

その御林は明治維新以降民有林となり、昭和に入りエネルギー革命でその役割を終えました。雑木はスギやヒノキの針葉樹に置き換えられていきま



新芽の
鮮やか雑木林
坂 09.4.24



結束町みどりの保全区

エコアップ作戦

齊藤 孝

うしく里山の会全体事業

「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」

参加者募集のお知らせ

今年度のエコアップ作戦は、茨城県森林湖沼税による補助（平成二十一年度元気な森林づくり活動支援事業）を受けて実施しています。その一環で、三月上旬までに本会とエコアップ作戦の紹介パンフレットを作成する予定です。

・二月の活動日時 二月五日（金）

午前九時～十一時半

二十一日（日）

午後一時～三時

・集合 ネイチャーセンター一階倉庫前
（予約不要／荒天時は中止 ホームページに情報掲載）

・持ち物 長靴、軍手（長袖、長スボンで）

刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ

（問い合わせ先）029-874-6600 担当：石神

この活動は、茨城県 森林湖沼税による補助を受けて実施しています。



牛久自然観察の森だより

齊藤 孝

薪ストーブが設置されました

去る一月、牛久市役所によるネイチャーセンター一階への薪ストーブ設置工事が完了しました。

今回導入されたのはモルソー社（デンマーク）製の薪ストーブ

で、煙突はネイチャー

センター天井部を通す

形で設置されました。

この煙突は二重で耐熱

構造になっており、私

達に見えている部分に

は熱が伝わらない仕組みになっています。また、ストーブに来園者が直接手を触れないよう、大型の安全柵も固定設置されました。

燃料の薪は、園内の管理作業を通じて確保してある広葉樹が中心となります。この薪は十分に乾燥しているものが必要で、最低でも一年間は乾燥させたものが適しています。二月から三月にかけて、まだまだ寒い日が続きますので、ストーブは稼働しますが、現在行なっている薪の準備は、早くも来冬に向けたものにもなっているのです。



待望の薪ストーブが登場！
もうご覧になりましたか？

今月の古木・希少木

No. 34
ヒサカキ

ツバキ科ヒサカキ属の常緑低木または小高木。岩手県以南の丘陵にふつうに自生している。本来照葉樹林の階層構造（亜高木層）を形成する樹でいたるところに生えている。葉は倒卵状楕円形で、葉先に向かってゆるやかに細り、先端は丸くやや反りかえる。ふちに細かなざざぎざ（鋸歯）がある。横向きの小枝に左右交互につき（互生）、平面に広がる。

（互生）、平面に広がる。

春先に小さな白い壺形の花を葉腋にぶら下がるように付け、独特の臭気を放つ。花には雄しべだけの雄花、雌しべだけの雌花、その両方をもつ両性花があり、それぞれ別の株につく（雌雄異株）。

果実は写真のように球形の液果、はじめ緑色で十月～十二月ごろ紫黒色に熟す。小枝に群がるようについた果実は、冬に鳥の格好の餌となり、種子が伝播される。

ヒサカキの名はサカキに比べて小ぶりの姫サカキ（ヒメサカキ）の訛りで、サカキの少ない地域では、サカキの代用として神事に用いられる。神棚に供えるサカキとして市販されているのは、ほとんどがこのヒサカキである。

牛久市内の山林や屋敷林、境内林に自然に生えているが、あまり目立たないので、ヒサカキと気づきにくい。下根の愛宕神社に牛久市内では最も古いヒサカキがひっそりとある。

ヒサカキの葉と果実 09.12.18



（坂根輝一）

2010年 2月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
	1 (休園日)	2 森の畑 13:30畑	3	4	5 エコアップ作戦 9:00NC	6 親子農業体験講座 9:00NC
7 巨木リサーチ2(特) 9:00市役所	8 (休園日)	9 森の畑 13:30畑	10	11 (建国記念日)	12 (休園日)	13 里山自然観察隊 9:00NC 親子農業体験講座 9:00畑(雨天20日) (会報等原稿〆切)
14 雑木林応援隊 9:00ムジナ	15 (休園日)	16 森の畑 13:30畑	17	18	19	20
21 運営委員会9:00NC 理事会11:00NC エコアップ作戦 13:00NC	22 (休園日)	23 森の畑 13:30畑	24	25	26	27 チーム 街路樹20(受) 13:00市ボランティアC (交流会) 会報発送 13:00NC
28 雑木林応援隊 9:00炭小屋						

活動日は天候等により変更となる場合がありますので、最新情報はホームページ(トップページのお知らせ欄)をご確認ください。

【凡例】

森:牛久自然観察の森
NC:牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P:牛久自然観察の森駐車場
炭小屋:牛久自然観察の森駐車場奥の炭小屋
畑:牛久自然観察の森駐車場の畑
コジュケイ:牛久自然観察の森内コジュケイの林
観察舎畑:牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ:結東町の雑木林(通称ムジナの里)

市役所:牛久市役所本庁舎
ボランティア:牛久市ボランティア市民活動センター

アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園

(休園日):観察の森休園日
(受):受託事業
(特):特別事業



編集後記

会員の皆さんも正月気分も抜け、二〇一〇年も順調にスタートしたと思います。

今年の冬は暖冬との予報もありましたが、かなり厳しい寒さも続きました。

元日を大正月と呼び旧暦一月十五日(新暦二月二十八日)は小正月と呼びます。小正月とは正月の望の日(満月)のことで現在では新暦でおこなうところもあるようです。年神や祖霊を迎える行事が多い大正月に対し、小正月は豊作祈願などの農業に関連した行事や家庭的な行事が中心となり、忙しく働いた主婦をねぎらう意味で女正月という地方もあるようです。(ウイキペディア)

身近な行事としてまゆ玉飾り(茨城地方ではならせ餅とも呼ぶ)があります。白に縛った木の枝に紅白の餅を飾ります。まゆ玉飾りは蚕の良い繭ができるように願ったのが由来のようです。

先日、牛久自然観察の森でチェーンソーの講習会がありスタッフとして参加しました。

講師の話聞きながら、現役のときのことを思い出しました。それは「仕事の教え方四段階」です。上司から「部下が仕事ができないのは教え方が悪いからだ」と口うるさくいわれました。特に安全・安心ですが、今回の講習もチェーンソーの危険な道具をいかに安全に扱うかを教えられた内容です。習う準備をさせる。作業を説明する(やってみせる)。

やらせてみる。教えたあとをみる。今回の講師の方はまさにその通り実行されました。教えられた私たちは、最初は教本通り慎重になるのですが、慣れるに従って安全の基本を忘れがちで事故を起こしやすくなります。私も刈払い機やチェーンソーを使用しますが、原点に戻って作業を進めようと考えさせられました。

(佐藤 輝雄記)

広報委員会からのお知らせ

次号2010年2月号の発送は2月27日(土)午後1時からです。お手伝いいただける方はネーチャーセンターまでお越しください。(尚、発送日・時間につきましては都合により変更する場合がありますので事前に御確認いただければと思います)よろしく願いたします。